

2014年(平成26)1月

カルメル 霊性センターニュース



ドゥーギエのマドンナ / 15世紀 エレウサ 板・テンペラ (ポーランド)

2014年1月

294号

目次

年頭のご挨拶	1
特集	
跣足カルメル修道会 インタビュー	2
心の泉	3
カルメル会の企画案内	2 1
諸所の企画案内	3 3
年間購読(郵送)のご案内	4 2
編集後記	4 3

2014 年度の年頭の挨拶



主のご降誕の喜びの内に

新年のご挨拶を申し上げます

昨年も、『霊性センターニュース』の発行を物心両面においてお支えくださり、まことに有難うございました。心から御礼申し上げます。

お蔭さまで、今年の7月に創刊より 300 号の節目を迎えます。8月は休刊しておりますので、25 年以上、四半世紀にわたって、発行し続けてきたこととなります。

以前はすべて手作業であったため、毎月発行し続けることが苦しくなり、隔月にすることやページ数を減らすことなどを考えたりした時もありましたが、何とか頑張ってまいりました。手軽な霊的な読み物と、黙想会や集い等の企画案内を、これからもみなさまのもとへお届けしたいと思えます。

どうか今年一年が、皆さまにとって実り豊かなとしとなりますように。東日本大震災やフィリピンの超大型台風など、多くの大災害の被災者の上に必要な援助の手がさしのべられ、再出発の年となりますように。またさまざまな事柄で悩み苦しむ全世界のすべての人の上に、神の恵みが豊かに注がれますように。

編集長

P. 九尾 彰 o.c.d.

**Merry Christmas
& a Happy New Year!**

カルメル霊性センター事務局

特集 跣足カルメル修道会 インタビュー

第1回 九里 彰 神父

本号より特集にて、日本の跣足カルメル修道会の方々へのインタビュー記事を、不定期で掲載致します。インタビュー初回は、現修道会管区長の九里彰神父です。

ーキリスト教との出会いについて

今、振り返ると上智大学の哲学科を選んだ時点で呼ばれていたと思います。私は高校時代、受験勉強には熱が入らず、生きる意味に悩みましたが、答えを求めるために、哲学科を選んだのだと思います。1968年に入学しましたが、最初はなるべく宗教には近づかないようにしました。大学院に入った時、あるシスターに強引に誘われ、クラウス・リーゼンフーバー神父の聖書研究会にまき込まれてしまいました。

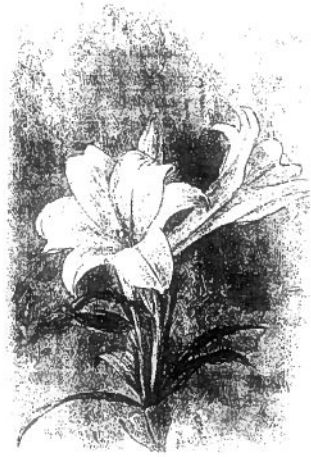
結局その後5～6年求道生活をして洗礼を受けました。その間にいろいろな人々に出会いました。私にとって影響が大きかったのは、前述のリーゼンフーバー神父、イエズス会の方々、中でも坐禅の愛宮ラサール神父。また特に影響を受けたのは型破りといっても良いかもしれない、ドミニコ会の押田成人神父です。カルメル会を出た井上洋治神父の著書もよく読みましたが、キリスト教との出会いはそういった人々との出会いであったと思います。

ーカルメル修道会との出会いについて

これも神の摂理だと思います。私は30歳で洗礼を受け、博士課程後に秋田の聖霊高校で教職につきましたが、その2年後にイエズス会に入りました。ある意味、自然の流れでしたが、押田成人神父の高森草庵での貧しい生活の影響などから、これは修道生活ではないと思い、イエズス会を飛び出してしまいました。(苦笑)

その後、瀬戸の聖カピタニオ高校で教えました。神様はさらに私を呼ばれたというか、求めていたというか、召命の灯は消えなかったのです。そして私の友達が奥村一郎神父を紹介してくれまして、勉強会にでかけました。それが、カルメル会との出会いでした。奥村神父に召命の話をする、「ここでも良いのでは」といわれ、カルメル会に入ったのです。当時はカルメル会の聖人の著書もあまり読んでおらず、靈性に惹かれたという訳でもなく、今思えばいい加減ですが(苦笑)。カルメル会に入会した一番大きなきっかけは、奥村神父との出会いでしたね。(以下 後日)

心の泉





第二卷

第二章 謙遜な服従

1 静かに苦しむ

誰があなたの味方につき、誰があなたに反対するかをあまり重視してはならない。むしろあなたのおこなうすべてのことに、神が共にあるように注意しなさい。正しい良心を保ちなさい。そうすれば神はあなたを守ってくださるであろう。神に守られている人には、どんな悪も害もおよぼすことができない。もしあなたが、だまって苦しむことを学ぶならば、必ず神の助けを受けるであろう。神はあなたを助けるにあたって、最適な時期と方法とを知っておられる。あなたは神により頼まなければならない。人間を助け、人間を恥辱のなかから解放放たれるのが、神のなさり方である。他人が私たちの欠点を見て、それを非難するなら、私たちが謙遜を保つ上で大いに役立つ。

2 謙虚さが必要

人が自分の欠点のためにへりくだれば、たやすく他人の怒りをなだめ、他人を満足させることができる。神は謙遜な人を保護し、解放し、愛し、慰める。謙遜な人を保護し、豊かに恵みを与え、その謙遜の後に永遠の光栄に上げてくださる。神は謙遜な人にその神秘をあらわし、優しくその人を招き、引き寄せてくださる。謙遜な人は、辛い試練の時にも平和のなかにある。なぜならばその人は、この世ではなく神に生きているからである。自分は誰よりも劣っていると確信しないかぎり、徳において何らかの進歩をしたと思ってはならない。

日々の生活の中で

神と親しく生きるために — 1 —

新しい年が始まります。

一人ひとりにとって今年も「よい年」となりますように。

何をしようと、どんな状況にしようと、どのような場所に置かれようと、

神との親しさを生きる基本的姿勢を常に保つことができるなら、

わたしたちは「よい一日、よい年」を過ごすことになるでしょう。



神に向かうには

希望という翼が必要です。

希望こそが 神へ向かって

わたしたちを歩ませてくれます。

わたしたちにとって希望は、鳥にとっての翼といえるでしょう。渡り鳥は果てしない海を飛び越えて移動します。でも、アヒルはときとして羽ばたくことがあっても、せいぜい池の周辺です。大海を渡らなければならない鳥は強い翼をもっていますから、一日中でも飛び続けることができるのです！

わたしたちも大きな希望をもつなら、しっかりした翼で遠距離を飛ぶ鳥のようです。でも、わたしたちはたびたびガアガア鳴きながら池のまわりをウロウロしている小さなアヒルかもしれません！

2014年を「よい年」とするために、大きな希望をもって神に向かって歩み続けたいものです。神の慈しみに希望を置く強い翼をもって。

わたしたちは神の子なので、父なる神は愛のまなざしをわたしたちに注いでくださいます。わたしたちの弱さや心理的状況とは無関係に、神の愛のまなざしはわたしたちを常につつんでくださいます。

伊従 信子 (いより のぶこ)

ノートルダム・ド・ヴィ

人を赦す（4）

くのり
九里 彰

前回の妙好人、因幡の源左（1842～1930）の逸話は、キリスト教的に言えば、右の頬を殴られたら、左の頬を向けるにも等しい行為である。「バカみたいだ」「あほらしい」と誰もが思うのではないだろうか。

彼の言葉は意表を突くが、決して型破りの人ではない。妻をめとり、子供をもうけ、農業（紙漉き）にいそしみ、国（緑綬褒章）や県から模範的な人として二三度表彰されている。

ではなぜ彼は、そのような行為を取ることができたのであろうか。それは、ひと言で言ってしまうと、彼もまた、親鸞上人同様、「地獄必定の身」であるとの深い自己認識を持っていたからである。自分が「罪業深重の凡夫」であるとの意識は、「人を赦す」どころではない、逆に自分は「人から赦される」べき罪人にすぎないとの意識に達していたのである。

これを裏づける逸話が、残されている。奥村一郎神父も『神と遊ぶ』（1999年、女子パウロ会）の中で取り上げている。それは、「一燈園」の創始者、西田天香さんが大正10年頃、因幡の智頭の町に講演に行った時の話である。50キロほど離れた所に住んでいた源左は、折悪しく病人が出たため、一汽車乗り遅れ、着いた時は講演が終わっていた。そこで宿に天香さんを訪ね、肩もみのサービスをした。その時の話である。

「先生、今日はどがなお話しなさったかな、かいつまんで話してつかさんせえなあ。」

そこで、天香氏が、「今日わしが話したことは、『ならぬ堪忍するが堪忍』ということであ。堪忍ならぬところから先に堪忍するのぞなけりや、堪忍したぞないがな。皆、堪忍し合うて暮らそうということをお話しましたよ。」と言うと、

それを聞いていた源左は、「おらは、まんだ人さんに堪忍してあげたことはござんせんやあ。人さんに堪忍してもらってばかりおりますだいな。」と答えた。

天香氏は金づちで頭をたたかれたかのように、「わしの肩をもむような爺ではなかつた」と、もらしたという。（101頁）

十字架の聖ヨハネ こぼれ話（76）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

聖マルティンの真似？

十字架のヨハネは、1590年の6月か7月にマドリッドにいました。アンダルシアからカルメル会のカタルーニャ管区に派遣された一人の修道者が到着しました。聖人は、彼と歓談しました。常に神の内にもかかわらず、その貧しい修道者がとても古ぼけたマントを身に着けているのが目にとまりました。ヨハネ修士は、彼のマントを、それよりずっと新しい自分のマントと交換しました。それは、これから旅をする彼がよりきちんとした、「よりエレガントな」格好でカタルーニャに到着するためでした。

このマントの交換、授与の出来事は、おのずと、ツールの聖マルティンのことを思い起こさせます。彼は、まだ求道者であった時、自分のマントの半分を、貧しい人に与えたのです。十字架のヨハネはと言うと、この修道士に全部を与えました。より擦り切れた、着古されたものを自分のものとすることによって。このようなことを、一度ならず行なっていましたので、彼はいつも継ぎはぎだらけの繕われた修道服を身にまとっていました。

ふたたび野原へ？

十字架のヨハネは、修道院の孤独をととても好みましたが、野原の孤独はそれほど好みませんでした。そこで、修道者たちをしばしば修道院の外へ連れ出しましたが、それは、野原の景色やきれいな空気を楽しむためでした。彼らを自由にさせながら、自分は光に満ちた場所とか、水が流れている場所とか、花が咲いている場所などを探していました。それらすべてが大好きでした。彼が何度も野外に連れ出すので、ある日、一人の修道者が彼に、なぜこんなにしばしば外に連れ出すのかと尋ねました。ヨハネ修士は、素早く答えました。「それは、長い時間、あなたたちを修道院の中に閉じ込めておくと、修道院から出たいと思うようになるからです。こうしてそれを避けているのです」。



主の公現の祭日(A)

みことばのひびき

(マタイ2:1~12)

主のご公現 (Epiphany) の祭日は、ユダヤの王を礼拝するために東方からやって来た三賢者に代表される全ての民に対する主の顕示のお祝いです。‘epiphany’ という言葉はギリシャ語で「示すこと」とか「顕示」を意味します。本来、Epiphany とは王さまが領地の人々を訪問することを言っていました。

マタイ福音書によれば、東方の賢者たちは星に導かれてベトレヘムの幼子を訪ねて来ました。ガスパール、バルタザール、メルキオールという名です。ガスパールは宝物、メルキオールは壮麗、バルタザールは神による王への保護を意味します。彼らは幼子を見つけると躊躇なく敬意を表し、黄金、乳香、没薬という三つの象徴的な贈りものを捧げました。三つの贈りものは霊的な意味を持っていました：黄金は地上の王職、乳香は祭司職、没薬は死体に防腐処理をするもので死の象徴です。星も一つの象徴です：全世界の光としてイエスを示す光です。

ご公現は、キリストのメッセージの普遍的な行き先のお祝いです。二つの重要な真理に光をあてます。第一にイエスがメシアであることを現わし、第二には異邦人への神の啓示です。賢者たちと同様に私たちもイエスを礼拝するように呼ばれています。このことは又すべてのキリスト者は教会であり、私たちは皆、み言葉を宣べ伝える使命を持っていることを述べています。賢者たちは自分たちに現われた星を通して言葉を聞き、王を探しに来ました。この祭日は、神が様々な星を通してご自分を現わし続け、私たちの中に住んでおられる王であるイエスの現存を発見するように招いているということを示しています。私たちはイエスを見出すように最善の努力をするべきです。私たちはキリスト者ですが、恵みの信仰がどれほど偉大なものであるかを認めないで、それをういなきことを当然のことと誤ってしまいます。「幼子」との出会いで私たちは不便さや困難を喜びをもって受け入れ、幼子のメッセージを宣べ伝えるために私たちを強めてくれます。旅をして来た賢者たちから、私たちは星が見えないときでも、信仰がどれほど忍耐強いかを学びます。彼らは希望を失いませんでした。再び星が現われたとき、彼らは探し続けました。私たちも彼らのようにイエスと出会うでしょう。

ミサのとき愛の黄金と、謙虚の没薬と、崇敬の乳香により、イエスを礼拝することで賢者に加わることを確認しましょう。私たちのまわりの人たちに善を行なうことにより祝福を用いることを神に約束し、私たち自身をさし出しましょう。賢者たちが帰り道で別のルートを選んだように、傲慢で不純な考えや、悪い習慣、利己的な行いを絶ち、積極的に愛の行いをすることで人生のよりよい道を選びましょう。「星」になることで人々をイエスに導きましょう。私たちは、献身的な奉仕や無条件の赦し、憐れみ深いケアによりイエスの愛を輝かせ、燃えるロウソクのように、私たちのまわりの悪の暗闇を取り除く役にたつことができるでしょう。

(Sr. Paulina)

「イエスがガリラヤからヨルダン川のヨハネのところへ来られた。彼から洗礼を受けるためである」(マタイ 3, 13)。

すべての福音記者が、その福音（喜びの知らせ）の記述をヨルダン川でのヨハネの洗礼で、また、洗礼を授けられるためにそのもとに来るイエスを描くことで始めています。実は、ヨルダン川は、世界の地理学や歴史では、たいした重要性のない川ですが、旧約聖書中で 188 回、福音書中では 15 回も、記載されています。この事実は、イスラエルの歴史の中でヨルダン川が持った特殊な重要性を明瞭にしています。地理的、経済的重要性ではなく、いつも、ただ一つの理由からです。この川は、(偶像の奴隷である) 異教の国々と真の神に仕えているイスラエルとを分かち境界線と意識されています。この境界線がイスラエル人によって最初に越えられたのは、エジプトの地からの脱出の終局においてです。ネボ山の頂上から、モーセは、約束された土地を眺めた、しかし、そこに渡っていない。決定的段階は、ヨシュアが主導し、まさにベタバラ地域で民、すべてにヨルダン川を渡らせた、ここに、イスラエルは、奴隷の地からの境界線を渡り、神が約束された自由の王国に入ったのです。しかし、わたしたちが問うべきは、それは、真実、アブラハムとその子孫に約束された自由の土地であったのか、とすることです。キリスト者たちが理解していることは、この出エジプト、約束の地への入国は、神がその民に保留されていた自由の王国のただ色あせた前表に過ぎないことです。その最初の出エジプトから約 1200 年後、「皇帝ティベリウスの治世十七年目に」(ルカ 3, 1)、ヨルダン川のこの渡し場に、洗礼者ヨハネが、そしてナザレのイエスが洗礼を受けるために現れた、それは、洗礼者によって準備された民を約束の地に向けて導くため、新しい「出エジプト」、十字架の死を経て復活への過ぎ越しを完結するためです。

この洗礼の舞台となった場所が想起させるもう一つのことは、そこが、地球上の海拔が最も低い土地であり、イエスはその公生活を始めるためにここを選ばれたのは、偶然ではない、イエスは、すべての人を御国に導くために天から来た、そして、誰もこの救いから漏れ出ることを望まれませんでした。このために、地理学的にも、最も低い場所に、もっとも深い深淵に降りたのです。こうして、すべての人間に、自分たちには罪の深淵から脱出することは不可能であると思っている人たちにも、イエスの救いは、触れるのです。

ルカ 渡辺幹夫

年 間 第 二 主 日 (B) (ヨハネ1-29-34)

今日から典礼は年間になります。福音はイエスのアイデンティティーについて、イエスとはどのような方か、またその方の使命は何であるかを告げています。わたしたちがイエスの真の弟子となりたいならこれを知る必要があります。というのは、弟子というものは主人を知り、理解し、そして常に親密に交わりながら従う者だからです。良い弟子は全て主人のもたらすよい知らせ、福音を宣言する使徒でもあります。

福音において、洗礼者ヨハネはイエスを世の罪を取り除く神の小羊であると宣言しイエスの証人となっています。その小羊はやさしさ、いけにえ、勝利のシンボルです。小羊は無邪気な動物、無防備であって自分に手をかけようとしている者の手をなめるとさえ言われています。イエスはこの小羊のように静かでやさしく謙虚な方、真に従順で心の貧しい方です。

今日読まれる福音において、イエスは初めて姿をお現わしになりますが、まだ何のメッセージも発せられません。わたしたちの主としてのイエスと同時に仕える者としてのイエスに出会います。イエスはヨルダン川で洗礼者ヨハネから洗礼をお受けになったと福音書は伝えています。イエスが近づいて来られるとヨハネは自分の弟子たちに知らせました：“ここに世の罪を取り除く神の小羊がおられる。”けれども今日の焦点は洗礼者ヨハネに当てられ、ヨハネはイエスについて証します。ヨハネは、世の罪を取り除くために来られた神の小羊であると、イエスのアイデンティティーを示しました。この一節は、出エジプト記に書かれている過ぎ越しの食事の一節と関連しているようです。この食事は最終的にイスラエルの人々をエジプト人の手から解放し自由に導くものでした。このヨハネの福音書の中の罪は、人が個々に犯す罪ではなく、人類を神から決定的に遠ざけてしまった全体的な体験を意味しています。ヨハネがイエスについて話すとき、イエスは神に従う人々に自由をもたらし、悪と罪の圧力から解放する新しい小羊であると宣言します。イエスは、人類の犯した罪を取り去り、人間らしさを回復してくださるために、ご自身を生贄として十字架の死に渡されます。こう考えると過ぎ越しの祭りの日にイエスの十字架の死が行われたことは偶然ではありません。イエスは新しい過ぎ越しの食事です；イエスはわたしたちのために自らを生贄として捧げる神の小羊です。預言者イザヤはイエスを、主である神への捧げものとなって屠殺場に引かれていく神の小羊であるとはっきり示しています。イエスはわたしたちの神である主ですからわたしたちの罪を取り除くことがおできになります；イエスは神に仕えるお方ですからご自分のいのちを生贄として神にお捧げになるのです。

イエスの弟子であることは、信仰によって成長しイエスの証し人となることです。これは生涯を通しての使命です。イエスを離れてはイエスの弟子にはなれません。キリストを愛することはいつもキリストの傍らに留まることです。個人的に向かい合ってキリストを知り、聖書、祈り、秘跡を通してキリストを味わい体験し、これを人々に運びます。愛、平和、正義、寛容、慈悲などの神の賜物を運ぶ者は幸いです。こうして神の小羊、わたしたちの主であるイエスキリストの証人となっていくのです。

(Sr. Paulina)

新しい年を迎えた希望の1月号に、かなしみ深くとはいささか不似合いではないかと思いましたが、近頃切に切に魅了されてやまない歌があります。

年年にわが悲しみは深くして

いよよ華やぐいのちなりけり

岡本かの子の有名な歌です。

かの子自身が、具体的には何をもってこの心境をここに詠んだのかはわからないのですが、私は今この歌に強く引き寄せられ、身勝手ながらすべてが自分のこととして心は共鳴するのです。

「かなしみ」と辞書をひくと〔愛しみ 悲しみ 哀しみ〕と文字が出て、いとおしむこと、かなしむこと、の意味だとあります。 それらの文字に目をとめつつじっと思いをこらしていると、いとおしむこととかなしむことが一つである世界の限りない深さに、どこまでも吸い込まれていくような気がします。

そういえば「慈悲」ということばも、いつくしみとかなしみが合体してひとつになっています。 仏教のことばで、衆生に樂を与えることを慈といい苦を除くことを悲というそうですが、慈悲もまた心の底に深く深く届く世界です。

としどしの重なるのゆえなのかもしれませんが、私にとって日々の暮らしの味わいのひとつひとつは、「かなしみ」ということばに集められるように思っています。 更にそこには、生きてこのいのちのかたどりが、より確かにより明らかになっていて、それはとても静かでありながら、いよよ華やぐいのちと形容してもいいとさえ感じられる鮮明さです。

悲しむ者に周りの風景はより美しく現れるといいますが、目に見るもの、耳に聴くもの、身体に触れるもの、心が感じ魂が知るもの、それらすべての味わいは、わがかなしみとなって近年深まってきたように思っています。

見上げる空の色雲の形、風のそよぎ木々の揺らぎ、道端の草花、鳥の歌虫の声、天にある人地にある人への思慕の情、そして今日の日にある事柄のひとつひとつを、私はこの世の記念などと云いつつ心に銘じおさめます。

若い頃の進み行く輝く力はもはやないのですが、そのかわりに魂に降りてくるあたかも祈りのような力に支えられているのを知っています。

今、心をよぎることがあります。

洗礼の恵みをいただいてキリスト者となって迎えた初めてのクリスマスに、

今は亡き代母Mと祝杯を挙げていたときのこと、ふと流れてきた「きよしこの夜」の曲を聴いて、突如世界が静止したようになって一変してしまい、魂が打ち震えました。　子どもの頃から数知れず耳にし自分でも幾度も歌ってきたなじみの歌曲なのに、それは生まれて初めて味わう「きよしこの夜」の感覚だったのです。　こみ上げてくる深い感概を言い表すことができず、すべての手だてを失ってワイングラスをもったまま、私はただ涙を流しました。

今にして思えばそれこそは、いとおしむこととかなしむことが一つになった世界であり、わがかなしみと名づけるべきものであったのでしょう。

あれから 43 年のとしどしがかさなりましたが、あの日のあの感覚は五感においても精神においてもわがかなしみの基いとなっているのかもしれませんが。

1月2日は、あの日ワイングラスをもったまま「めでたし」をともに祈った代母Mの6回目の命日です。

岡本かの子は如何なる胸の内を抱えてとしどしを生き、如何なる悲しみを深めていのちを華やぐものとしたのでしょうか。測り知ることはできませんが、ただひとつ思い遣るのは魂の深い孤独です。　深く独りであったことです。深く岡本かの子自身であったことです。

その人が真に独りであり真に自分自身であるためには、誰かがその人だけのためにいてくれなくてはならない、というような意味のことを何かで読んだのですが、全くそのとおりに思っています。　私が、わがかなしみは深くしていよよ華やぐいのちを生きるためには、私だけのためにいてくれる人が要るのです。　私の主よ、私の神よ、　イエズスキリストをおいて誰がいるというのでしょうか。

そしてここで奇妙なことを言いますが、主イエズスが私だけのためにいてくれるその人であったとき、そのときは実は誰もが私にとってのその人となるのです。　あなたがいてくれるので私は私になれるのです。　わがかなしみは深くなるのです。

新しい年の始まりに、わがかなしみを思いめぐらしました。
今、マリアさまが胸をいっぱい満たします。[愛しむ　悲しむ　哀しむ]　いとおしむことかなしむことを味わいつくされてのご生涯だったと思います。

スタバトマーテル　私の大切なことばです。

わたしたち罪びとのために今も死を迎えるときもお祈りください。

いのちの言葉 1月

キリスト、教会の唯一の土台

(コリントの信徒への手紙一 3・11 参照)

パウロは、紀元五十年にコリントの町に到着しました。コリントは、重要な商業港として知られ、多くの思想学派を抱えた活気あるギリシャの大都市でした。この地でパウロは一年半福音をのべ伝え、生き生きとした大きなキリスト者共同体の基盤を作りました。その後は、他の人々が引き継いで福音宣教を続けたのですが、新しいキリスト者たちは、キリスト御自身よりも、キリストのメッセージを伝える人に執着してしまう危険がありました。こうして、「私はパウロにつく」と言う人々もいれば、他の使徒を好んで「私はアポロにつく」「私はペトロに」などと言う人々も出てきて、いくつかの派に分かれてしまったのです。

こうした分裂により動揺するキリスト者共同体に対して、パウロは、教会を一つの建物・神殿にたとえ、建設に携わる人は多くても、土台となる生きた石はただ一つ、イエス・キリストであると、力強く語っています。

諸キリスト教会や共同体は、キリストが唯一の土台であることを、特に今月のキリスト教一致祈禱週間の中で、共に思い起こします。キリストの教えを自らのものとし、唯一の福音を生きることによって、諸教会の間に目に見える満ち満ちた一致が実現することを、共に思い起こすのです。

キリスト、教会の唯一の土台。

キリストを土台として生活を築くとは、キリストと一体になるということです。それは、キリストのように考え、キリストのように望み、キリストのように生きingことを意味します。

しかしキリストを土台とし、彼に根付いて生きるには、どうすればいいのでしょうか。どうすればキリストと一体になれるのでしょうか。

福音を実践することによってです。

イエスは神のみ言葉であり、み言葉が受肉された方です。み言葉が人となられたのがイエスなら、私たちも神のみ言葉で生活全体を築いていく時、初めて真のキリスト者であると言えるでしょう。

私たちがイエスの言葉を生きるなら、いえむしろ、「み言葉が私たちを生き」、私たちが「生きたみ言葉そのもの」にしてくれるなら、私たちは本当にイエスに近づき、イエスと一体になれるでしょう。私が生きる、私たちが生きる、というのではなく、み言葉が皆の中で生きようになるのです。このように生きるなら、私たちが全キリスト者の一致の実現に貢献することになるでしょう。

肉体は生命を維持するために、呼吸をします。同様に魂がいのちを保つために、み

言葉を生きるのです。

このような生き方がもたらす最初の実りの一つは、イエスが私たちの内に、また私たちの間にお生まれになることです。これによって私たちの考え方も変えられていき、だれかと接したり、さまざまな状況や社会を前にする時も、私たちの心にはキリストと同じ思いが注がれます。これはアジア人、ヨーロッパ人、オーストラリア人、アメリカ人、アフリカ人などの区別なく、だれにでも言えることでしょう。

私たちはみ言葉を生きる時、さまざまな人間的条件から自由になり、喜びと平和、光に満たされ、シンプルになり、充実感を体験します。み言葉を生きるなら、み言葉が私たちをキリストと一つにし、私たちをもう一人のキリストに少しずつ変えてくれます。

キリスト、教会の唯一の土台。

さて、すべてのみ言葉が要約される、一つのみ言葉があります。それは「愛すること、神を愛し、隣人を愛することです。イエスは、ここに「律法全体と預言者」(*1)が含まれると言っておられます。

み言葉は、人の言葉で表現され、それぞれに異なっているとしても、すべて神の言葉です。そして、神は愛でおられるので、すべてのみ言葉も愛です。

では、今月はどのように生きればいいのでしょうか。「教会の唯一の土台」であるキリストと一つになるには、どうすればいいでしょう。イエスが教えてくださったように愛し合うことです。

聖アウグスチヌスは「愛しなさい。それから何でも思うままにきなさい」と言いましたが、これは福音を生きる時の規則を、ひとことで表現していると言えるでしょう。私たちは、愛する時には過ちを犯さず、完全に神のみ旨を成就することができるからです。

キアラ・ルービック

*1 マタイ22・40参照

* 今年も1月18日から25日に「キリスト教一致祈禱週間」が行われ、テーマは「キリストは幾つにも分けられてしまったのですか」(一コリント1・13)です。今月は、この言葉に関連して、キアラが2005年1月に発表したものを取り上げています。

★ **いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。**

●お知らせ

いのちの言葉の集い

関東 1月12日(日) 13:30~ 神奈川 かつりつ藤沢教会 204号室
(週日に、吉祥寺、調布、鷺沼、藤沢、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも)
中部 1月12日(日) 14:00~ 愛知 瀬戸市本郷町東・喫茶室「遊夢」
長崎 1月26日(日) 14:00~ 長崎 かつりつ浦上教会 要理教室信徒会館

連絡先

フォコラーレ:03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ:フォコラーレで検索

<http://focolare.world.cocan.jp/>

ヘンリ・ナーウエンの 旅路の糧（172）



秘跡としての被造界

神がイエス・キリストの内に受肉された時、創造されないものと創造されたもの、永遠のものとの時間的なもの、神聖なるものと人間的なものが、一つとなったのです。この一致によって、死すべきものすべてが、今や不死なるものを指し示し、有限なるものすべてが、今や無限なるものを指し示すことになりました。イエスの内に、またイエスによって、すべての被造物は、輝かしいペールのようなものとなったのです。それを通して、神のみ顔が私たちに明らかに示されているからです。

これは、被造界の秘跡的性質と見なされるべきものです。存在するものは皆、それらが神の贖いの愛を語っているがゆえに、聖なるものなのです。海も風も、山も木も、太陽も月も星も、すべての動物も人間も、私たちに神を垣間見せる聖なる窓のようなものとなったのです。

(0922)

宇宙を抱きしめること

靈的生活を生きることとは、私たちの小さなびくびくした心を、宇宙のように広い心にする事です。なぜなら、私たちの内に住むイエスの靈は、全被造物を抱きしめているからです。イエスは、「み言葉」であり、この「み言葉」によって、宇宙は創造されたのです。パウロが言うように、「天にあるものも地にあるものも、見えるものも見えないものも、…、万物は御子において造られたからです。つまり、万物は御子によって、御子のために造られました。御子において万物は一つとなっているのです」(コロ1・16-17)。それゆえ、イエスとその靈によって私たちの内に住む時、私たちの心は、すべての人々ばかりでなく、すべての被造物をも抱きしめるのです。愛は、あらゆる恐れをしめ出し、神に属するすべてのものをかき集めるのです。

祈りは、イエスの靈をもって呼吸することであり、私たちをこの途方もなく偉大な知識へと導くのです。

(1115)

(九里 彰訳)

*****絵本のための小さなおはなし*****

「森の絵のフレスコのお話」

ねこたぬきの子は、旅に出ました。たぶたぶおなかを揺らして身軽に歩いたり、座って立ち止まって考え事をしたりしながら繰り返して、ある日黒い森のところに出ました。中は真っ暗、くらのすけ。その子の瞳孔は開いて、真っ黒の目が潤んで、ふくろうのようです。白いきのこがぼうっと光って、生えています。

そこへ、ふくろももんがが、小さい子の手を広げたように足を広げて、木の間を飛びました。

「やや、おなかにポケットのある面白いやつが出たぞ。つかまえて尻尾を引っ張ってやりたいな」

ねこたぬきは、大きな体に似合わない敏捷な身のこなしで、爪を立てないよう気をつけて、ももんがをそっとつかまえました。

「ねこさん、たぬきさん、どっちでもいいけど、堪忍してくださいよ。あたしの尻尾がとれちゃうじゃないの。とれたらどうするのよ。」

森は、一つのいのち。森全体で一つのいのち。何が欠けても、かけがえのないものを失った森はいのちでなくなってしまう。

土、草、木、空、生き物。



跣足カルメル修道会HP (International)

世界的な跣足カルメル修道会のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>



ORDEN
CARMELITAS DESCALZOS
• CURIA GENERAL DEL CARMELO TERESIANO •

<< Communications (時事通信) >>

“ 聖ラファエル・カリノフスキー” 巡礼修道院 完成まぢか

2013年12月10日

2010年にクラコフ教区は、聖ラファエル・カリノフスキー巡礼修道院の建設工事をポーランドのチェルナ市で着手しました。そこでは二つの建物の建設が企画されました。一つは図書館とカリノフスキー神父の生涯に関する博物館で、簡易食堂とクラスや集会のための様々なホールを備えています。もう一つは、巡礼者が宿泊できるホテルです。

ちょうど今、二番目の建物の建設工事が始まっています。この工事を記念して、聖堂で集会が持たれ、クラクフ管区から40名の跣足カルメル会士たちが出席しました。そして、この集会において建物の礎石が据えられました。

チェルナは、カルメル山の聖母と聖ラファエル 聖カリノフスキーの巡礼地です。聖エリアの教会と修道院は、1629年にアグニェスカ・テチェンスカ・フィルレイの努力によって建てられました。

カルメル山の聖母のご像は18世紀の中期から保存されていました。聖ラファエルカリノフスキー神父は聖母信心を広めるために尽力しました。彼の聖遺物は、聖堂のひとつに納められています。チェルナは、静けさにひたるため、またカルメル山の聖母マリアに祈りを奉げるために、巡礼に訪れる多くの人々にとっても愛されています。



ウィルフレド・スティニッセン神父 逝去

2013年12月10日

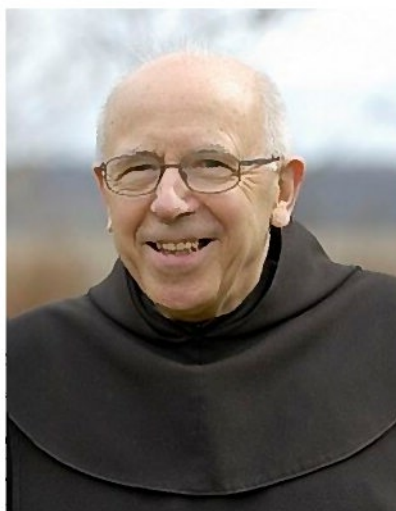
ウィルフレド（ジョージ）スティニッセン神父は、1927年1月10日にベルギーのアントワープで生まれ、2013年11月30日にスウェーデンのトガーブで帰天されました。

彼の両親はジュリウスとマルセラ・リーケンスです。彼は1943年8月27日に、ベルギーのブルージュで跣足カルメル会の修練院に入り9月6日に着衣し、王たるキリストのウィルフレドの修道名を受けました。1944年9月8日に跣足カルメル会士とし初誓願をたてました。彼はゲントで哲学を、ハースローデで神学を学び、1951年8月5日に司祭に叙階されました。1953年から1957年にかけて、有名なルーバン大学で学び、哲学の博士号を取得しました。その後、1958年から1961年の間、哲学史、宗教心理学、禁欲主義と神秘主義、グレゴリオ聖歌の教授になりました。1961年に、彼はブルージュで修練長に任命されました。

第Ⅱヴァチカン公会議後、彼はヨガをキリスト教的な祈りに結びつけることに関心を持ちました。

その後1967年にスウェーデンに移住しました。そして他の修道者と共にスコーネ県のトガーブに修道院を設立しました。この修道院では訪問者を受け入れ、黙想と祈りの機会を提供しています。

彼は霊的な作家であり、その著作は多くの言語（英語、フランス語、イタリア語、スペイン語、ポルトガル語等）に翻訳されています。彼は母国語のフラマン語で本を書くのを常としていました。「Into Your Hands, Father」や「The Will and Providence of God」などが名著とされています。



祈り監修 カルメル修道会 受洗やクリスマスのプレゼントに最適

祈りと記念の手帖



わたしと神、わたしと大切な人々との出会いを記し、日々祈り、記念するための永年手帖

—推薦の言葉— Br.田中直 (聖パウロ修道会)

祈りによってさまざまな垣根が取り払われ、天と地が結びつき、人と人とが支え合うことができます。この手帖によって祈りの輪が広がっていくことを願っています。



* Br.田中は、日々の出会いを記念した祈りを実践していらっしゃいます。

〔収録内容〕

- 九里彰「記念し、祈る」
- 曜日のないダイアリー：誕生日、結婚記念日、受洗日、命日などを自由に記入できます
- 年ごとの記録：10周年、金祝などの覚えに役立ちます
- 絵画（カラー）と解説：祈りに向かう心、空間をつくるために
- 祈りと祈りのヒント（カルメル修道会監修）：主の祈り、聖人たちの祈り、年始・年末の祈り（高橋重幸・晴佐久昌英）や「祈りの小道」、聖句、詩などを豊富に収録



オリエンズ宗教研究所 編
ISBN 978-4-87232-085-5 C0016
A5判・200頁・本体価格1600円+税

全国のキリスト教書店、Amazon、オリエンズ宗教研究所HPをご利用ください。

オリエンズ宗教研究所 〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5

TEL : 03-3322-7601 FAX : 03-3325-5322

ホームページ : <http://www.oriens.or.jp/>

カルメル会の企画案内



上野毛霊性センター ～ ‘15年3月

黙想企画 ** 上野毛聖テレジア修道院 (黙想) **

1. 祭日のミサに参加するために

【聖週間】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。
2014年 4月17日(水)～20日(日)《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】 チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
2013年12月24日(火)～25日(水)《講話なし、夕食なし》
2014年12月24日(水)～25日(木)《講話なし、夕食なし》

2. 木曜黙想会 (毎回木曜日10時～16時) 昼食つき どなたでも参加できます

2014年

9月11日	聖体の秘跡	ベルナルド神父
10月9日	人となられたみことば	古川利雅神父
11月13日	神に生かされて貧しさを生きる	中川博道神父
12月4日	無原罪のマリア	渡辺幹夫神父

2015年

3月5日	洗礼と主の晩餐	福田正範神父
------	---------	--------

3. 金曜黙想会 カルメルの霊性 (毎回金曜日10時～16時) 昼食つき

どなたでも参加できます

2014年

4月11日	ヘルマン・コーヘン	古川利雅神父
7月4日	カルメル山の聖母	中川博道神父
10月31日	永遠の命への憧れ 聖テレジア	渡辺幹夫神父

2015年

1月16日	聖テレジア・ベネディクタ (エディット・シュタイン)	福田正範神父
-------	-------------------------------	--------

4. 奉獻生活者の為の黙想会

2013年

12月27日(金)	18時～2014年1月5日(日)	古川利雅神父
-----------	------------------	--------

2014年

8月 1日 (金) 18時～	8月10日 (日)	福田正範神父
8月15日 (金) 18時～	8月24日 (日)	古川利雅神父
10月10日 (金) 18時～	10月19日 (日)	福田正範神父
12月27日 (土) 18時～	2015年1月5日 (月)	福田正範神父

5. 青年黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

2014年

4月25日 (金) 16時～27日 (日) 16時

11月22日 (土) 15時～24日 (月・振休) 16時

6. 召命黙想会(男女) 福田正範神父、カルメル会士

2014年

9月13日 (土) 15時～15日 (月・振休) 16時

7. 聖週間前の黙想会 福田正範神父

2014年

4月 2日 (水) 16時 (受付)～4月 4日 (金) 昼食まで「十字架の神秘」

8. 特別黙想会 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)

初日の夕食は済ませてご参加下さい。

2014年

5月23日(金)20時～25日(日)16時「聖書と祈り」

11月 1日(金)20時～ 3日(月)16時「慈しみの愛と祈り」

※) 注 2014～15年の予定は、今後変更の可能性があります。

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までをお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんので、
なるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたしません)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25 聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355 / FAX 03-3704-1789

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp



講座のご案内

■場所：カトリック上野毛教会（信徒会館ホール）

■担当：中川博道（カルメル修道会）

■どなたでもいつからでもご参加ください



カルメルの靈性に親しむ

いずれも 金曜日

朝のクラス ≪10:30～12:00≫

夜のクラス ≪19:15～20:45≫

2014年 2月14日

3月7日

生ける神との出会いを探して

—靈性神学入門講座 / キリスト教入門講座—

いずれも 金曜日

朝のクラス ≪10:00のミサ後～12:00≫

夜のクラス ≪19:30～21:00≫

17	2014年 1月10日	「キリストと共に歩む道」(3)
18	1月24日	「主の祈り」
19	2月7日	「キリスト者が大切にしている事」
20	2月21日	「秘跡」(1)
21	3月14日	「秘跡」(2)

お問合せ: carmel-reisei@hotmail.co.jp

カルメル会出版物のご案内



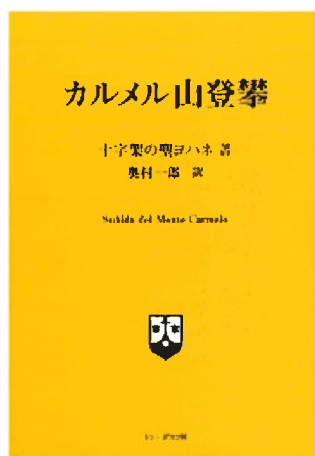
「神のさすらい人」
アビラの聖テレサ
マルセル・オクレール著
福岡カルメル会訳



「創立史」
イエズスの聖テレジア著



「靈魂の城」
イエズスの聖テレジア著



「カルメル山登攀」
十字架の聖ヨハネ著
奥村一郎 訳

●お問合せは下記まで

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想の家）

TEL 03-5706-7355 FAX 03-3704-1789

E-mail : mokusou@carmel-monastery.jp

2014年～2015年 黙想会案内 (宇治カルメル会)

【一般のための黙想】

・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)			
2014年	1月 11日(土)～12日(日)	念祷生活	今泉健神父
	5月 24日(土)～25日(日)	キリスト教の人間共同体	松田浩一神父
	7月 12日(土)～13日(日)	聖母マリア	今泉健神父
	9月 6日(土)～7日(日)	神の慈しみの歌	松田浩一神父
	11月 1日(土)～2日(日)	死についての黙想	今泉健神父
2015年	1月 10日(土)～11日(日)	神の栄光・生きている人間	松田浩一神父

【聖書深読黙想会】

・ 1日 (午前10時～午後4時)			
2014年	2月 1日(土)		九里彰神父
	4月 5日(土)		九里彰神父
	6月 7日(土)		九里彰神父
	9月 13日(土)		九里彰神父
	11月 29日(土)		九里彰神父
2015年	2月 7日(土)		九里彰神父

【水曜の黙想】

・ 1日 (午前10時～午後4時)			
2014年	1月15日(水)	キリスト信者の祈りのカテキズム	松田浩一神父
	2月 5日(水)	イエスの奇跡	今泉健神父
	3月26日(水)	四旬節の心	松田浩一神父
	4月16日(水)	キリストの受難と死	今泉健神父
	5月14日(水)	キリストの教え(神の救いの御計画)	松田浩一神父
	6月18日(水)	イエスの御心を思う	今泉健神父
	7月23日(水)	キリストの教え(神の救いへの参加)	松田浩一神父
	9月17日(水)	福音的な小さい道	今泉健神父
	10月 8日(水)	キリストの教え(神と共に歩む)	松田浩一神父
	11月12日(水)	死者の月に祈る	今泉健神父
	12月17日(水)	テレサと祈り	松田浩一神父
2015年	1月14日(水)	神の国は近づいた	今泉健神父
	2月11日(水)	キリストの教え(神と人間の尊厳)	松田浩一神父
	3月25日(水)	神のお告げ	今泉健神父

【四旬節の黙想】

・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)			
2014年	3月 8日(土)～3月 9日(日)	十字架と信仰	九里彰神父
	3月22日(土)～3月23日(日)	人間となった神の子へのキリストの信仰	松田浩一神父
2015年	2月28日(土)～3月 1日(日)		
	3月28日(土)～3月29日(日)		

【待降節の黙想】

・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)			
2014年	12月13日(土)～12月14日(日)	神の子の誕生	九里彰神父

【聖テレーズの黙想】

・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)			
2014年	9月30日(火)～10月 1日(水)		伊従信子師

【キリスト教霊的同伴】

・ 3泊4日 (午後8時～午後3時) 限定10人			
2014年	5月 3日(土)～5月 6日(火)		松田浩一神父

【カルメル青年の集い】

・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)

2014年 4月27日(土)～ 4月28日(日)

今泉健神父

11月23日(土)～11月24日(日)

今泉健神父

【一般のためのカルメルの霊性入門】

・ 1泊2日 (午後5時～午後4時)

2014年 2月 8日(土)～ 2月 9日(日) 「イエスの聖テレサ的カルメル霊性 NO. 2」

松田浩一神父

10月14日(火)～10月15日(水) イエスのテレサ生誕500周年開始

松田浩一神父

【奉獻生活者の黙想】

(午後5時～午後9時)

2014年 7月31日(木)～ 8月 9日(土)

松田浩一神父

8月19日(火)～ 8月29日(金)

今泉健神父

12月27日(土)～ 1月 5日(月)

松田浩一神父

祭日のミサに参加するために

【聖週間を祈る】

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30

聖木曜日から復活祭まで通して参加可能です。またどの曜日からでも参加可能です。

4月16日(木)～ 4月20日(日) {講話なし、各食事つき}

【クリスマス】

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30

12月24日(水)～12月25日(木) {講話なし、各食事つき}



—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。—

☆お申し込みは、電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申し込み下さい。お電話は、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受け付けが休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016, Fax 0774-32-7457

E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

『社会人(働いている人)のための霊的同伴』

— 一日常のキリスト教霊性を求めて —

日々、現代社会で忙しく働いている皆様に、この静かな一時を提供する企画です。この一泊の企画は、キリスト者の霊的・心的修養を目的として、**霊的同伴(スピリチュアル・コーチング)**を中心としながら、皆様のお手伝いをします。

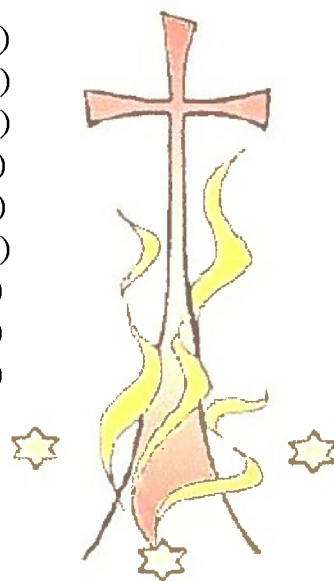
【内容】

- この企画は、個人的霊的修養でもありますので、一般的な講話はありません。
- 各人の信仰からの日常生活を見つめる視点(霊的理解)を促進しますので、この静かな一時の中で短い個別同伴(一人30分)を行います。
- メソッドの一つとしてスピリチュアル・コーチングを適用して、参加者一人ひとりの視点を尊重します。
- キリスト者としてのパーソナルな統合はキリストのうちに行為されるものですので、信仰・希望・愛を培い、この三つの対神徳をベースにおいて行います。

【参加者人数】 6人

【開催日】

- | | | |
|---|-------|------------------|
| ① | 2014年 | 1月24日(金)～25日(土) |
| ② | | 2月21日(金)～22日(土) |
| ③ | | 3月28日(金)～29日(土) |
| ④ | | 6月 6日(金)～ 7日(土) |
| ⑤ | | 7月 4日(金)～ 5日(土) |
| ⑥ | | 9月12日(金)～13日(土) |
| ⑦ | | 10月 3日(金)～ 4日(土) |
| ⑧ | | 11月 7日(金)～ 8日(土) |
| ⑨ | | 12月 6日(金)～ 7日(土) |



(毎回金曜日 20時(夕食なし)～土曜日 15時)

【参加費】 各回 6,500円

【霊的同伴】 松田浩一神父(カルメル会士)

【申込み方法】 参加希望者は、前日の木曜日 16:45 迄に、下記の聖テレジア修道院(黙想)へ FAX、はがき、Eメールで申し込んでください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)
Tel 0774-32-7016、Fax 0774-32-7457
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

「立ちどまって、ひとりになって、聴いてみよう！」 …～都会の中の一泊静修～（2014）名古屋…

(テーマ)「聖テレジア(アヴィラ)の私たちへのメッセージ」～2015年、生誕500年を迎える～

1月の予定

日 時・・・1月13日(月・祝) 午前10時～午後4時

場 所・・・日比野教会

テーマ:「聖テレジアが会ったイエスを訪ねて」

講 師:中川博通神父(上野毛修道院)

他の月のテーマ、講師は、決定次第掲載致します。

☆ 名古屋カルメル霊性センター

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17 カルメル会日比野修道院

FAX 052-671-1825

一泊静修連絡係 〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115 小林 厚・晃子

TEL・FAX 052-701-3685



☆霊性センター

カルメルの霊性「祈り」を知るために。

どなたでも気軽にご参加下さい

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14:30～講話（カルメル会司祭）

15:30～ミサ（賛歌ラテン語）

☆土曜フレックスタイム静修

御自分の都合に合わせて好きな時間に参加でき、

霊的にだけではなく、心身共にリフレッシュ出来る時

間として 御利用下さい。

毎月第三土曜日 三馬教会 聖堂

13:30～聖書朗読、短い講和

14:30～ベネディクション、聖体顕示

15:30～聖体拝領

16:00～サルヴェレジナ、終了

各合間の時間は、各自自由に黙想しながら祈る時間です

カルメル会三馬修道院 三上和久神父



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父迄

Tel. 076-244-7788

聖書深読センターのご案内

- 1 東 京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。
- 2 宇 治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）のご案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 18,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 16,900円

講師：九里彰師（奇数月） 今泉健師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿 2-6-1 新宿住友ビル

私書箱 21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：今泉健神父 連絡先：Srパウリーナ

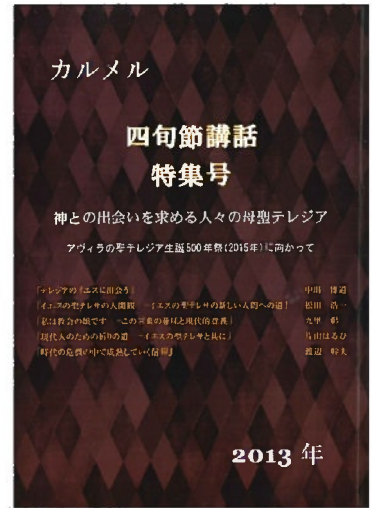
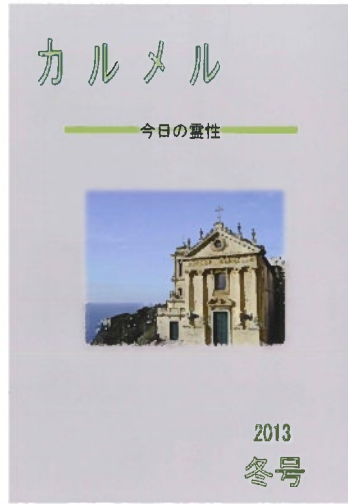
TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

「カルメル」
今日の霊性・冬号
四旬節講話特集号



キリストの慈悲によってベルナルディーノ・
デ・メンドーサを煉獄から救った聖テレジア



カルメル 2013 特集号

「神との出会いを求める人々の母
聖テレジア」

2013 冬 No.351

砂漠の修道院に入る (7)	奥村 一郎	56
キリスト教と革新(確信) ——奥村神父とわたくし (2)	谷口 正子	48
西行と芭蕉の霊性 (2) ——「おくのほそ道」の旅から (1)	田畑 邦治	41
修道院生活 春夏秋冬 (10)	高橋 重幸	35
人を育む霊性 ——エディット・シュタインの教育論 (3)	須沢 かおり	28
「花びらをまく」 ——H々の苦勞をささげる	中山 眞里	21
生活のなかのカルメル		
修道院の窓から (2)	原 造	17
信仰年 聖テレサに導かれて (4)	伊従 信子	9
信仰を生きる (4) ——アビラの聖テレジアの信仰理解	九里 彰	3
● 目次 ●		
● 今年の特集 イエスの聖テレジアと信仰 ●		
テレジアのイエスに出会う	中川 博道	2
イエスの聖テレサの人間観 ——イエスの聖テレサの新しい人間への道	松田 浩一	12
「私は教会の娘です」 ——この言葉の意味と現代的意義	九里 彰	24
現代人のための祈りの道 ——イエスの聖テレサと共に	片山 はるひ	37
時代の危機の中で成熟していく信仰	渡辺 幹夫	51

購読のご案内

雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。(カトリック書店：
サンパウロ、ドンボスコ書店等) 定価は、一冊460円です。

- 送付ご希望の方は、600円【内訳 460円(＋送料140円)】を
下記へお振込み下さい。
- まとめてご購入希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬号・特集号
【460円×5＝2,300円】＋送料【700円】
計 3,000円)を下記へお振込み下さい。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会
お問い合わせは、事務担当竹田まで。

TEL (03) 5706-8356

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
ノートルダム・ド・ヴィ
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
サダナ瞑想
CWC (キリスト者婦人の集い)
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご紹介下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。電話では取り次いでおりません。

申し込みは10日前迄に完了、お願いします。会場予約準備がありますので。

◎572-0001 大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
<http://www.com-unity.co.jp/naikan> (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2014年予定

- | | | |
|----|----------------------|---------------------|
| K1 | 1/25 (土) -1/31 (金) | 東京・小金井・聖霊会 |
| M1 | 2/9 (日) -2/15 (金) | 宝塚売布・女子ご受難会 |
| N1 | 2/24 (月) -3/2 (日) | 滋賀唐崎・ノートルダム |
| K2 | 3/22 (土) -3/28 (金) | 東京・小金井・聖霊会 |
| S1 | 3/30 (日) -4/5 (土) | 千葉白子・十字架 イエスベネディクト会 |
| N2 | 4/30 (水) -5/6 (火) | 滋賀唐崎・ノートルダム |
| K3 | 6/14 (土) -6/20 (金) | 東京・小金井・聖霊会 |
| T1 | 7/25 (金) -7/31 (木) | 兵庫西宮・女子トラピスチヌ |
| M2 | 9/9 (火) -9/15 (月) | 宝塚売布・女子ご受難会 |
| K4 | 9/27 (土) -10/3 (金) | 東京・小金井・聖霊会 |
| S2 | 10/5 (日) -10/11 (土) | 千葉白子・十字架 イエスベネディクト会 |
| N3 | 10/26 (日) -11/1 (土) | 滋賀唐崎・ノートルダム |
| K5 | 11/29 (土) -12/05 (金) | 東京・小金井・聖霊会 |

真命山の霊性



自然 神はすべてを造り人の手にゆだねられた

陽の昇るところから 祈り
陽の沈むところまで



静けさ 沈黙の中に神の言葉を聞こう

信仰体験を 分つ 交わり

祈りの集い（午前10時～午後3時）

1月 9日	天使からのお告げをお受けになった時の聖母マリアの祈り
2月 13日	エリザベットを訪れられた時の聖母マリアの祈り
3月 13日	神の子イエスをお産みになった時の聖母マリアの祈り
4月 10日	羊飼いたちや博士たちの訪問をお受けになった時の聖母マリアの祈り
5月 8日	聖ヨセフと共に神殿に登ぼり、イエス様をお捧げになった時の聖母マリアの祈り
6月 12日	聖ヨセフと共にエジプトへ逃れられた時の聖母マリアの祈り
7月 10日	聖ヨセフと共に神殿でイエスを見つけられた時の聖母マリアの祈り
8月	休み
9月 11日	ナザレで聖ヨセフとイエスとご一緒の時の聖母マリアの祈り
10月 9日	イエスを探しに行かれた時の聖母マリアの祈り
11月 13日	イエスの十字架のもとでの聖母マリアの祈り
12月 11日	イエスの弟子たちと共に祈られた聖母マリアの祈り

指導者

フランコ・ソットコルノラ神父

（真命山院長）

ダニエレ サルティ・サルトリ

神父

Sr.マリア デ・ジョウルジ

申し込み先

865-0133

熊本県玉名郡和水町1391-7

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

TEL 0968-85-3100

Fax 0968-85-3186

E-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

www.shinmeizan.org

個人またはグループでの黙想会や研修会も歓迎いたします。
（要予約）

リーゼンフーバー神父講座・集いの案内 2013~4年

●キリスト教入門講座

金曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座

毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分
聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。

●土曜アカデミー 以下の土曜日、
9時30分～12時15分、岐部ホール4階404、
各時代の文書を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。キリスト教思想史に関心を持っている方、プログラム等に関してはHP(文末)を見て下さい。

2013年度のテーマ:
超越理解と理性の自己発見 — I 古代と中世
「中世：哲学・神学・神秘思想」(9世紀～15世紀)
[盛期スコラ学] 01/11
[中世末期] 01/18,01/25,02/01,02/08

●ミサ

水曜日 17時10分～18時 上智大学内 Kulturl-Haus 1階右小聖堂。どなたでも。但し祝日、8月全体、12月25日は休み。

●黙想

・「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日、8月13日は休み。8月27日は Kulturl-Haus 聖堂
・「お昼の黙想」毎月第1・第3火曜日 10時40分～12時 聖イグナチオ教会マリア中聖堂
どなたでも。但し祝日は休み。
・水曜日 18時～18時30分 上智大学内 Kulturl-Haus 1階右、テレジア小聖堂
どなたでも。但し祝日、8月全体、12月25日は休み
・「通う霊操」8月24日(土)～9月1日(日)18時～20時45分 上智大学内 Kulturl-Haus 聖堂

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内S.J.ハウス、第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。

2014年1月11日、2月8日、3月1日

・ロザリオの祈り(同日、ミサに続いて)16時10分～16時50分 上智大学内 Kulturl-Haus 1階右、小聖堂

●黙想会

[関東] 1泊6,600/6,800円程度。
2014年
03月08日(土):10時～9日(日)14時(上石神井)
[関西]

●坐禅会

・月曜日 17時20分～20時10分
・木曜日 18時～20時30分
上智大学内 Kulturl-Haus 1階左の部屋。但し祝日、5月2日、8月全体、12月26日、30日、1月2日は休み
3回坐り、間に講話

●坐禅接心

[秋川神冥窟] 1泊2400円(+暖房費)程度。
11月1日(金)20時30分～11月4日(月)13時

●アガベ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時～18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5会議室
2014年1月25日(土)

●クリスマス

クリスマス会
12月14日(土)16時～20時30分。岐部ホール4階、404(予定)。要申し込み。

クリスマスミサ

12月23日(月)14時～上智大学内 Kulturl-Haus 聖堂 (80人限定)。

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

リーゼンフーバー神父キリスト教

入門講座 2014年

日時 毎週金曜日

18時45分～20時30分

1/3〇休み

1/10

希望を持つ勇氣— 未来に向かって歩む

1/17

霊の動き— 福音による生き方

1/24

秘跡と教会生活— 毎日を養う信仰

1/31

神の言葉— 神との日常的な対話と黙想の仕方

2/07

結婚と独身— 愛の道

2/14 信徒・司祭・修道者— 誰もが召されている

2/28

人間の苦悩— 悪とは何のためか

3/07

死— その受け入れと克服

3/08-9

●黙想会(上石神井)

3/14

人生の完成— 神の内に生きる

3/28

聖母マリア— 信じる者の原型

リーゼンフーバー神父キリスト教

理解講座 2014年

日時 第1・3・5火曜日

18時45分～20時30分

[日常生活]

01/07 困難と苦しみ— 謙遜な自己奉獻と神への信頼

[信仰の実現]

1/21 教会生活とミサ— 「キリストの体」の神秘

2/04 秘跡の恵み— たえざる刷新と神のいのちの深まり

2/18 祈りの本質と霊的読書— キリストとの心の交流

3/04 創造的靈性— 活動における観想

3/08-9 ●黙想会(上石神井)

3/18 「聖徒の交わり」— 信仰の内に支え合う



《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03・3263・4584

クラウド・リーゼンフーバー神父

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学SJハウス

電話 03-3238-5124(直通) -5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

いのちの泉へ（ノートルダム・ド・ヴィ）

- 「いのちの泉へ」
すべての人のための祈りの集い

カルメルの靈性に学びつつ、キリスト者としての靈性を養うための講話と、沈黙の祈りで構成された集いです。カルメルの靈性を、より深めたい方のグループと、若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

1月25日 新しい年に、慈しみの愛に希望する

講話 伊従 信子
午後2時～午後5時30分位まで、
講話、祈り、分かち合い。
参加費 200円

申し込み・お問い合わせ
ノートルダム・ド・ヴィ
〒177-0044
練馬区上石神井4-3
2-35

TEL(03)・3594・2247
FAX(03)・3594・2254
E-mail notredamedevic.japan@gmail.com
ホームページ
<http://www.ndv-jp.org/>



カルメル会の靈性を受け継ぐノートルダム・ド・ヴィ(いのちの聖母会)は、現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

主に選ばれる恵み

見なさい、あなたの母です

2014年 第四回 召命黙想会

日時: **2月15日(土) 15:00~**

16日(日) 15:30まで

場所: ノートルダム唐崎修道院
(JR京都駅から30分)

指導: 山内 十束 神父 (御受難会)

対象: 独身女性信徒

費用: 2,000円

締切: 2014年 2月 9日(日)

<申込み・問合せ>

〒520-0106 滋賀県大津市唐崎 1-3-1
ノートルダム教育修道女会

Sr. 桂川

Tel 077-579-2884 Fax 077-579-3804

Email karainorind92@mbe.nifty.com

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、17時のミサで始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 2014年 4月29日(火)～ 5月7日(水)
- ② 8月14日(木)～ 8月22日(金)
- ③ 10月25日(土)～ 11月2日(日)
- ④ 12月27日(土)～ 2015年1月4日(日)

B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2014年 2月7日(金)～ 2月9日(日)
- ② 2月28日(金)～ 3月2日(日)
- ③ 3月21日(金)～ 3月23日(日)
- ④ 6月20日(金)～ 6月22日(日)
- ⑤ 7月18日(金)～ 7月20日(日)
- ⑥ 9月26日(金)～ 9月28日(日)
- ⑦ 11月28日(金)～ 11月30日(日)

C. 講話 黙想 (奉獻生活者のため)

2014年 5月26日(月)～ 6月3日(火) 藤原 直達 師 (大阪教区)

◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Fax で「黙想係」松本佳子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順 11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なさいたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日を除きます。)

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

★申込み受付・開始日の8日前で締切ります

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。 URL : <http://sadhana.jesuits.or.jp/>

コース	日時<指導者>	指導者	開催場所	申込み
自己を知る *1泊2日 ×2= 合計4泊	2014年 1/11(土)9:30- 1/12(日)17:00 1/18(土)9:30- 1/19(日)17:00	Fr植栗	小金井聖霊修道院	若山美知子※
入門C	2/2(日) 9:30-17:00	Fr植栗	援助修道会リヒト宣教室 (市ヶ谷)	若山美知子※
サダナI	2/8(金)17:30- 2/11(火)16:00	Fr植栗	三位一体聖体宣教女会 東京修道院(東村山市)	若山美知子※
入門A	2/8(金)17:30- 2/11(火)16:00	Fr ラフォン	広島市・西日本霊性センター(長束黙想の家) 申込み:西日本霊性センター「こもれび」 Sr 田中 Tel 082-239-0034/Fax239-0036	
日帰り	3/2(日) 9:30-17:00	Fr植栗	上石神井黙想の家	若山美知子※
サダナII	3/19(水)17:30- 3/23(月)16:00	Fr植栗	三位一体聖体宣教女会 東京修道院(東村山市)	若山美知子※

※不在の場合は、渡辺由子

Tel & Fax : 042-325-7554

(注) 日帰り=サダナIを終えた方

*サダナI

体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

*サダナII

Iをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。



CWC (キリスト者婦人の集い)

カルメルの霊性に学ぶ

『完徳の道』

場所：真生会館 10:30～12:00

2月18日(火) 最終回：『完徳の道』第42章 + ミサ



東京都新宿区信濃町33番地4 真生会館ビル
TEL : 03-3351-7121 (受付代表)
<http://www.catholic-shinseikaikan.or.jp/>

九里彰神父 (カルメル会日本管区長)

慈しみ深き会

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
— 観想の祈りへの道 —

場所：イグナチオ教会岐部ホール 14:00～16:00
12月のみマリア聖堂 (ミサ有り)

2月20日(木) 『靈魂の城』第6の住居・第2章

アビラの聖テレジアの「靈魂の城」を読んだ後、一緒に沈黙で祈ります

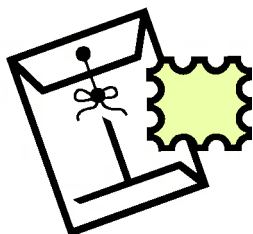
*参加費無料 (献金歓迎)

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

霊性センターニュース

* 年間購読(郵送)のご案内 *



来年(2014年)1月から12月までの『霊性センターニュース』
年間購読(郵送)のお申し込みを受け付けいたします。

年間購読の場合の献金は、2500円程度をお願い致します。
これには11回分の送料(8月休刊)が含まれます。

ご郵送は、基本的に申し込み翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号～12月号(但し8月号休刊を除きます)
この場合の献金については、ご希望の月数×250円程度となります。

申込先：下記の霊性センターニュース事務局へ、
氏名、郵便番号・住所、電話、Fax等をご記入の上、
郵送か下記のe-mailでお申し込みください。

《郵送でのお申し込み》

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25
カルメル会上野毛修道院 「霊性センター事務局」

《e-mailでのお申し込み》

tokyo@carmel-monastery.jp

献金振込先：霊性センターニュースの最終ページをご参照下さい

* 何かご質問等があれば、下記にご連絡ください。

Tel: 03-3704-2171

Fax: 03-3704-1789

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ

一冊 100 円程度の献金をお願い致します！

「霊性センターへの献金」のお願い

「霊性センターニュース」は、現在、上野毛霊性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル霊性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。



編集後記

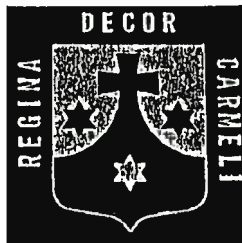
以前、ご紹介した「シルバー川柳」が、書店に売り出されていた。その中の一つ。

来世も 一緒になろうと 犬に言う

妻や子供からは、とうの昔に相手にされなくなり、言うことをきいてくれるのは、忠実な犬だけ。散歩をしながら、二人？で夕日を眺めているうるわしい情景が浮かんでくる。人生のペースを感じさせる実に味わい深い一句である。

さて今年一年は、どのような年となるのであろうか。人間存在の意義、人間の使命は、人間だけ見つめていても答えは出てこないのではないだろうか。皆が自分の意見を絶対視することだろうが、それらは、所詮、人間の考えにすぎない。人間を超えた地平に心を開き、そこからの声に謙虚に耳を傾けて行かない限り、すべての民族、すべての国々の間に、真の一致、真の平和は訪れないのではないだろうか。

他国と競争し、一国のみの繁栄を考える時代は、終わったように思う。日本の政治家、経済人の多くが、普遍的な地平に目を開き、その言葉に耳を傾け、普遍的な「地球家族」へと向かっていく年となりますように。 (P.九里)



.....製本／発送のご協力お願い.....

「霊性センターニュース」の製本／発送は、基本的に[毎月最終週の火曜日](#)に行われます。作業はホッチキス綴じと購入者様への発送のみです。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加の方も、大歓迎です。お茶とお菓子の時間もありますよ♪

「2月号」製本日

[1月28日\(火\)](#) 上野毛教会信徒会館ホール 1階
午後 1 時半頃から～

※参加ご希望の方は、念のため、製本日をご確認下さい。霊性センター係

TEL 03・3704・2171